

格差と貧困、差別をなくす

困難のその先へ

はい！  
大和田あきおです！

日本共産党

大和田あきおプロフィール：1952年川崎市生まれ。東海大学付属相模高等学校/早稲田大学教育学部卒業。神奈川県立川崎北高等学校・横浜南陵高校上矢部高校など県立高校の教学教師として勤務。神奈川こころの自由裁判をすすめる会・共同代表として「日の丸君が代の強制反対と思想信条の自由」を求める運動・裁判に取り組み。日本共産党戸塚区教育文化部長。神奈川高校教職員連絡会顧問。趣味は映画鑑賞、旅行、剣道四段。戸塚区平戸在住。妻と二人暮らし。

ごみにはば 大和田あきおです 党戸塚区教育文化部長 2022年特別号  
発行：日本共産党戸塚区委員会戸塚曲3884-1  
TEL: 045-865-0074 FAX: 045-865-0594



さて、大きなパンフの方では印象そのままの硬めの大和田あきおさんの様子が描かれました。こちらの小冊子では、普段の飾らない？大和田さんの魅力をパートナーである幸子さんからお聞きした内容をお伝えしようと思います。

### 1 パートナーからみたあきおさんの性格は？

ひとことと言うと、猪突猛進。たまに、考える前に走り出すことがあります。本人は「走りながら考えている」と言っています。その行動力には助かっています。



**2 結婚の際、苗字をジャンケンで決めたとのことですがその時の気合などありましたら、幸子さんの気持ちを教えてください。結果として大和田姓に変わったあきおさんですが、その後の変化など思い出エピソードを教えてください。あきおさんは姓を変えた後、女性からの反響が多かったと言っていました。**

苗字はじゃんけんを決めようと言い出したのは、私です。民法上はどちらの姓にしてもいいそうで、国際政治学者の畑田重夫さんがじゃんけんを決めたという話を学生時代に聞き、その話をしたら意外にすんなり受け入れてくれました（葛藤があったかどうかはわかりませんが）。

私は「大和田」という名前が好きだったので、じゃんけん、がんばりました！

見事勝ち取った苗字ですが、私が当時勤めていた学校の校長先生からは、「新しい苗字は何？」と何度も聞かれて辟易でした。

でも、この苗字じゃんけんは夫の職場の女性教員の間では好評だったらしく、教職員組合の役員選挙では夫の得票が急増したそうです。

その後20年経っても、教職員組合の女性役員のかたから、「お噂はかねがねお聞きしています」と言われ、その評判の高さにビックリしました。

ではここで、あきおさんの文章もどうぞ  
(以下はあきおさんが書いた当時のエピソードです)

### ジェンダー平等と妻との出会い

1988年4月に県立新磯高校に転勤となり、教師としての新たなスタートを切りました。

その頃毎月、高校生活指導研究会の学習会に参加し、この研究会のゼミナールで知り合った女性教師との交際が始まりました。

2人で新幹線を利用した日帰り旅行で、京都の宇治市にある(第1回普通選挙で代議士になり、治安維持法に反対した)山本宣治の記念碑を訪ねたことは懐かしい思い出です。

その後、結婚の準備を進めていく中で、その女性から、「苗字は一方向的に決めるのではなく、平等に話し合って決めてほしい。

国際政治学者の畑田重夫さんもじゃんけんでは苗字を決めています。」と強く訴えられ、私も考えた末に、「本来、苗字は、男女平等に決めるものだ」と思い、三回勝負のじゃんけんでは苗字を決めることにしました。その結果、私はじゃんけん負け、姓が大和田になりました。今にして思えば、苗字の決め方を通じて、ジェンダー平等を体験しました。その相手が現在の妻です。



幸子さんの思い出の中では、

あきおさんの思い出の中では、

3 あきおさんの趣味は映画鑑賞とのことですが、一緒に映画をみることはありますか？一緒に観た映画で印象に残って色々あきおさんと話したことなどありますか？

一緒に観た映画で一番印象に残っているのは、『ライフイズビューティフル』です。何度も観に行き、DVDもサントラも買って、自分のお葬式ではこのサントラをBGMにしようとしてよく話したものです。

映画でもドラマでもドキュメンタリーでも、一緒に観ていて気がつくとならば隣で目をうるうるさせていて、家では「ほろほろくん」と呼んでいます。



4 教員時代のあきおさんの仕事ぶりにどのような印象を持っていましたか？

教員時代、帰宅して玄関に入るなり、その日あったことを結構何でも話していたので、仕事ぶりが手に取るようわかりました。

本人は「質実剛健」を目指して厳しくしていたようですが、生徒からは「金魚」というあだ名をつけられたり、文化祭で「おもしろい先生」に選ばれたり、本人の目指す路線とは違い、生徒たちには陽気な先生に映っていたように思います。

授業づくりには精魂傾けていて、私も数学の教員だったので、一緒に教材研究をしたこともあります。



5 あきおさんは甘いものが好きだということですが、どれくらい好きなのでしょう？甘いものを食べる時は一緒に食べますか？

どら焼きや焼き芋が大好きで、家では「芋おじさん」と呼んでいます。どら焼きの買い置きは欠かすことがなく（本人が買ってきます）、私の分まで食べて、こっそり補充しています。



**6 剣道をしているあきおさんを直接見たことがありますか？  
あれば、その時の印象などをお願いします。**

残念ながら見たことがありません。

**7 あきおさんの趣味は旅行とも聞きました。旅行はいつも一緒に  
行かれるのですか？行った場所で特に印象に残った場所  
と思い出エピソードなどあったら教えてください。**

私が出不精なので、旅行は研修旅行（日本各地で行われる  
数学教育や生活指導などの研究集会）ぐらいしか一緒に行  
ったことがありません（新婚旅行は京都・奈良に行きました  
けど）。

海外旅行は、ILOとユネスコへの研修ツアーとコスタリカ  
へのエコツアーに行きました。

今でも話に出るのは、フランスで食べたマクドナルド。

冒険が苦手で、フランスでなかなかレストランに入ること  
ができず、やっと見つけた安心なお店がマクドナルドでし  
た。安定の品ぞろえと価格にホッとしました。



これ以降は、大和田あきおさんの文章です。  
教員時代のエピソードの一部を紹介してもらいました。

## 夢を語り、希望を語り合う生徒会に

県立上矢部高校に赴任して4年目、部活動での問題行動で、2人  
の生徒が退学しました。その一人の生徒が私のクラスの生徒でし  
た。

私は、その生徒が退学して投げやりにならないよう、再起を願  
い、退学後も個人的に数学を中心に学習指導をしながら、高校  
の再入学をめざしました。家庭訪問を行い、9月の神奈川総合高  
校への再入学の受験に合格するまで援助を行いました。

「生徒の生活の事実をどうとらえるのか」「何を生き甲斐として  
生徒は立ち上がるようになるのか」などなど、その生徒から多く  
のことを学びました。その当時、悩みながら指導に取り組んでい  
た私につけられたあだ名が、「上矢部の金八先生」でした。

翌年、私は生徒会本部の担当になり、生徒の「夢や希望を大切に  
する生徒会活動」を目標にとりくみました。生徒会の主体的な取り  
組みによって、生徒主体の文化祭を成功させ、生徒会本部の生徒  
たち自身がこれ以降、活気ある活動をすすめていくようになりました。



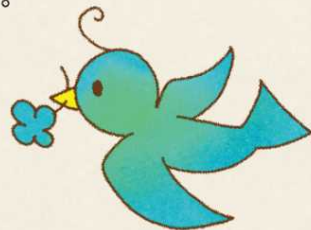
## 実名を勧め、差別を許さず、 韓国併合の歴史を学ぶ

1992年4月から県立茅ヶ崎北陵高校に赴任し、翌年、1学年の担任となりました。

その学年準備に当たっていた3月、私のクラスに在籍する予定の生徒の父親から「私も子どもも在日朝鮮人で、その実名を名乗っているのか心配です。実名が良いのか、それとも日本名を名乗った方がよいのか」と相談を受けました。私は、少し考えた後、「実名を名乗ることは当然です。それに対する差別は認めません。また、差別を絶対に許さない学校や社会にするためにも、実名を名乗った方がよいと思います。」と話しました。父親も「そうですね。実名をお願いします。」と明るい返事が返ってきました。

その生徒は、高校入学から実名を名乗り、学級委員に立候補し、クラスのリーダーとして活躍しました。

その子を通して、何故、在日朝鮮人に対する差別の問題が現在も残っているのか考えさせられ、日本軍国主義と韓国併合による強制連行の歴史について学びました。



## 心の自由を求め、「処分」をちらつかせながらの強制に立ち向かう

2004年11月30日、神奈川県教育委員会は、すべての県立学校長に対して、「入学式・卒業式における国旗の掲揚及び国歌の斉唱の指導の徹底について」という通知を発しました。この通知は、自民党や右翼系団体からの介入によるもので、入学式や卒業式での日の丸掲揚・君が代斉唱を教職員全員に強制するとともに、その強制に従わない教職員については、「服務上の責任を問い、厳正に対処していく」ことが明記されました。

私は、神奈川県教職員有志とともに、2005年1月23日、「訴訟の準備会」を開きました。「日の丸・君が代」強制反対の一致点で集まった約30名の県立学校の教師が「学校教育における日の丸・君が代の意味」、「教育の自由とは何か」、「思想良心の自由」について、一人ひとりの思いや決意を語り合い、今後の方向性について確認し、裁判に向けて準備をすすめました。

2005年2月6日、私たち教職員有志は、「神奈川こころの自由裁判をすすめる会」を発足させました。

同年7月27日、県立高校、盲・ろう・養護学校の教職員107名からなる原告団が、大川隆司弁護士を代表とする弁護団86名(最終的に、原告170名、弁護団101名)とともに、横浜地裁に提訴しました。神奈川県に対して、日本国憲法及び国際人権規約等に基づいて、「日の丸・君が代に対する忠誠義務」を負わないことの確認を求める訴訟でした。

## 謹慎処分の生徒がリーダーに

川崎北高校での最後の年、私が2年生の担任として受け持った留年生M君は、前年に暴力問題を起こし、無期家庭謹慎になっていました。そこで、私は4月の始業式前日に、電話で「私がきみの担任になりました。これから一緒に頑張ろう。」と伝え、始業式後に家庭訪問を行い、M君と両親の3人に会い、「M君がクラスや委員会の仕事をするならば、何が良いと思いますか」と問いかけ、新しいクラスに馴染み、高校生活を再出発できるよう励ましました。

その後、M君は徐々にクラスに馴染んでいきましたが、6月中旬に暴力行為で再度、無期の家庭謹慎となりました。私はほぼ毎日家庭訪問をし学習指導を行っていましたが、ある時M君から「先生の生きがいは何ですか」と問われ、「今の学校をもっと生徒が中心で民主的なものにしたい。今の日本社会は矛盾が多い。本当に国民が平等になる社会にしたい。」と語ったこともありました。また、クラスで話題となっている文化祭のとりくみについて話し、クラスの文化祭実行委員長になってほしいと説得しました。謹慎が明け、M君は私の期待に応え、文化祭でリーダーとして活躍し、その後はクラスの仲間と和やかに接するなど成長していきました。

私はその学年を最後に、転勤することになり、離任式で全校生徒に、「これから生きていく中で、つまずいた石は踏み石にもなる」と語りました。離任式の最後に、クラスの生徒たち一人ひとりから一輪ずつ花を受け取り、川崎北高校を後にしました。

## 大和田あきおの市政改革ビジョン

- 1 一人ひとりの子どもの成長・発達を保障する教育・保育
  - ・認可保育園の増設と保育士の増員と処遇改善、学童保育への支援増
  - ・小中学校・高校の30人以下学級の実現、教員の多忙化解消
  - ・子どもの学習権の保障による小学校、中学校、高校の統廃合政策の見直し
  - ・子どもたち一人ひとりの意見表明の保障、生徒主体の学校づくり
  - ・全員制の学校調理方式の中学校給食の実現
  - ・教育費無償化と給付制奨学金制度の実現
- 2 すべての人に支援が行き届く市政の実現
  - ・医師、看護師の増員と保健所の拡充
  - ・18歳までの子ども医療費無料化
  - ・18歳以下の均等割り廃止による国民健康保険料の軽減
  - ・出産費用の無料化
  - ・敬老パスを維持し、75歳以上の敬老パス無料化の検討
  - ・消費税減税およびインボイス制度の廃止を求めるとりくみ
  - ・特別養護老人ホームの増設
  - ・高齢者の医療費負担の軽減
  - ・国民健康保険料の負担軽減
  - ・狭い生活道路と歩道の整備
  - ・住まいは人権、市営住宅の増設・改善
  - ・経済の要の中小企業の支援の抜本的強化、公契約条例の制定
- 3 災害に強く市民の命を守るまちづくり
  - ・通学路の安全確保(危険なブロック塀対策等)
  - ・避難所の拡充と対策
  - ・危険な崖地の改善対策
  - ・河川の氾濫浸水対策
- 4 男女賃金格差を無くし、差別のないジェンダー平等の市政実現
- 5 気候危機打開に向け省エネ化と再生可能エネルギー導入の促進
- 6 憲法9条を生かして市民のいのちとくらしを守る横浜市政の実現
  - ・日本国憲法第9条を中心とする平和主義・民主主義・立憲主義の充実
  - ・国連憲章に基づく平和の国際秩序、侵略戦争反対、核兵器禁止条約批准を求めるとりくみ

